

水源地交流事業



集合写真

当初、水源地清掃から始まったこの事業も、回を重ねる毎に目的や、実施事項などが変わって参りました。これは、水源地に暮らす方々の要望と、下流に暮らして水を利用している私どもの思いが必ずしも一致していないことが原因です。

ただし、敵対的である



植樹風景

■ 名古屋市指定水道工事店協同組合青年部会

担当役員 中島誠照

実施日 平成18年11月19日（日）

参加者 総勢36名

（内訳：大人 21名 子供 15名）

とか、相容れないというのではなく、両者が協力して水源地を守ること、そして、その苦勞を分かち合う為にも、上下流に生活する人々どうしが交流を深めることが重要ということです。

これらの観点から、今年はいにくの天気であったため、清掃活動を行うことはできませんでしたが、ダムの施設見学、ダム湖周辺への植樹という活動をして参りました。昨年度は味噌川ダムを訪問し、今年度は岩屋ダムの訪問となりましたので、定点観測という視点から今年の活動を評価することはできませんが、水源地の方々がダムを大切に維持してくださっていることを参加者が知ることができました。

ダムの施設見学は、発電、貯留以外にも、下流域での洪水防止をするために、水系全体を見渡しながらか、放水を行うモニタールームを見学させて頂くことで、ダムの機能を改めて知ることができました。

植樹に関しては、ダム湖周辺への植樹の一環として苗の植樹をしてまいりました。大きくなった苗を想像しながらの作業でしたが、スコップを手にした子供達も、そしてもちろん大人も楽しく活動することができました。

名古屋市が水利権を持ったダムはたくさんあるため、毎年恒例となったこの事業も、毎年同じダムを訪問することはできません。しかし、続けてくる事で、現地の方々との距離は近くなったように感じます。次年度以降も続けていきたい活動です。



記念碑と伊藤会長